

## I 第34週の発生動向 (2016/8/22~2016/8/28)

1. 警報・注意報は、発令されていません。
2. ヘルパンギーナについては、県全体の定点当たり患者報告数が、前週の1.29から2.24に増加しました。特に上十三保健所管内では、定点当たり患者報告数が前週の0.50から3.00に増加しました。
3. RSウイルス感染症については、八戸保健所管内で定点当たりの患者報告数が、前週の0.80から3.70に増加しました。

## II 第34週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

		東青 (東地方保健所・青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (八戸保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減	
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
小児科	インフルエンザ																-2
小児科	RSウイルス感染症	4	0.50	6	0.67	37	3.70							47	1.12	34	
	咽頭結膜熱	7	0.88	2	0.22					2	0.33			11	0.26	3	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.25	3	0.33	33	3.30	1	0.20			3	0.75	42	1.00	15	
	感染性胃腸炎	30	3.75	16	1.78	39	3.90	17	3.40	2	0.33	3	0.75	107	2.55	9	
	水痘	1	0.13			1	0.10	1	0.20			5	1.25	8	0.19	3	
	手足口病	1	0.13	10	1.11	2	0.20	5	1.00	4	0.67	5	1.25	27	0.64	15	
	伝染性紅斑	9	1.13											9	0.21	3	
	突発性発しん	1	0.13	4	0.44	1	0.10					2	0.50	8	0.19	-19	
	百日咳																-1
	ヘルパンギーナ	27	3.38	32	3.56	5	0.50			18	3.00	12	3.00	94	2.24	40	
流行性耳下腺炎	7	0.88	2	0.22	1	0.10	1	0.20	1	0.17	2	0.50	14	0.33	3		
眼科	急性出血性結膜炎															0	
	流行性角結膜炎	2	1.00	1	0.33	1	0.50							4	0.36	1	
基幹	クラミジア肺炎															0	
	細菌性髄膜炎															0	
	マイコプラズマ肺炎					1	1.00					2	2.00	3	0.50	1	
	無菌性髄膜炎															-2	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)							1	1.00					1	0.17	-1	

## III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患): 弘前1人、五所川原1人、上十三1人、むつ3人 (2016年計:191人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 東地方・青森市1人、弘前1人、八戸10人(2016年計:85人)

## IV 病原体検出情報

※( )内は、検査材料及び検体採取日です。

- ・上気道炎患者(鼻汁、咽頭ぬぐい液、7/23~7/27): エコーウイルス9型: 八戸1人、ヒトライノウイルスC及びパラインフルエンザウイルス3型: 八戸1人
- ・下気道炎患者(ふん便、7/22): アデノウイルス4型: 青森市1人
- ・感染性胃腸炎患者(腸内容物、7/26): エコーウイルス6型及びヒトライノウイルスC: 八戸1人
- ・熱性けいれん患者(咽頭ぬぐい液、ふん便、7/21~7/26): エコーウイルス6型: 八戸1人、エコーウイルス6型及びHHV: 八戸1人、ヒトライノウイルスA: 八戸1人

# 感染症の窓

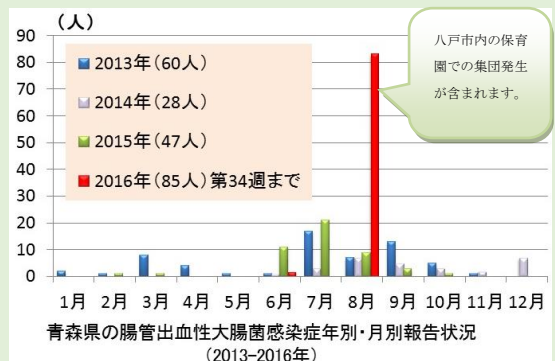
## 腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症) 第3回

腸管出血性大腸菌感染症は、家畜や人の腸内にも存在する大腸菌のうち、ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌による感染症です。

血清型O157などの腸管出血性大腸菌の感染は、菌に汚染された飲食物を口に入れたり、菌が付着したものを介した経口感染により感染します。

県内では、第34週までに、合計85人(速報値)の届出があり、このうちの77人は、八戸市内の保育園での集団発生によるものです。初夏~初秋は腸管出血性大腸菌感染症多発期として、十分注意が必要です。

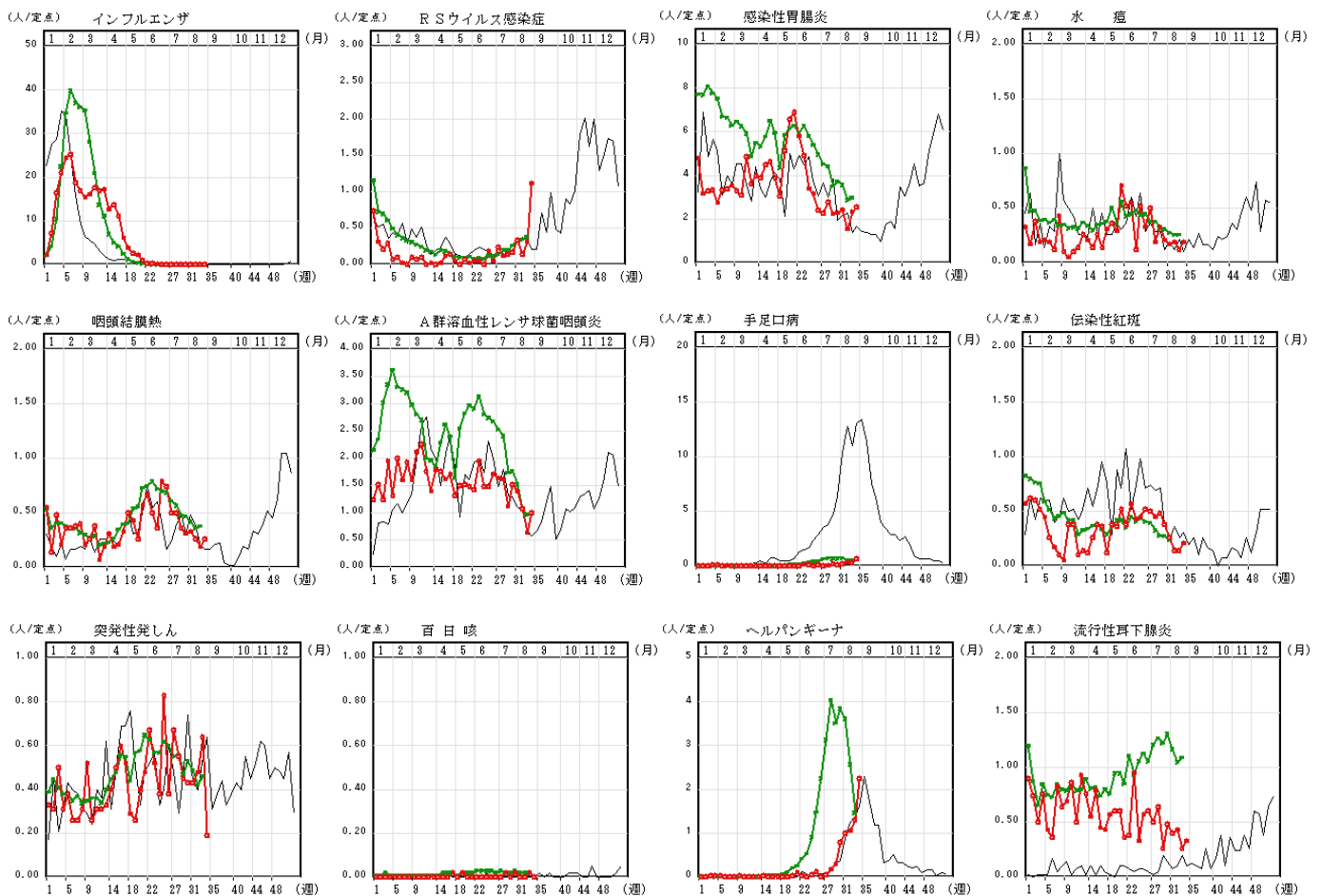
感染予防対策としては、食品を十分加熱(75℃1分間以上)することと十分に手を洗うことが重要です。特に、排便後、食事の前、下痢をしている子どもや高齢者の排泄物の世話をした後や動物と触れた後などには、せっけん流水で丁寧に手を洗いましょう。※ 詳しくはこちらをご覧ください。→ [腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)



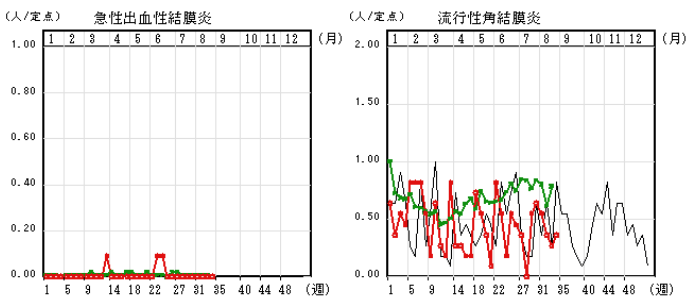


Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2016年第34週、但し全国は前週)

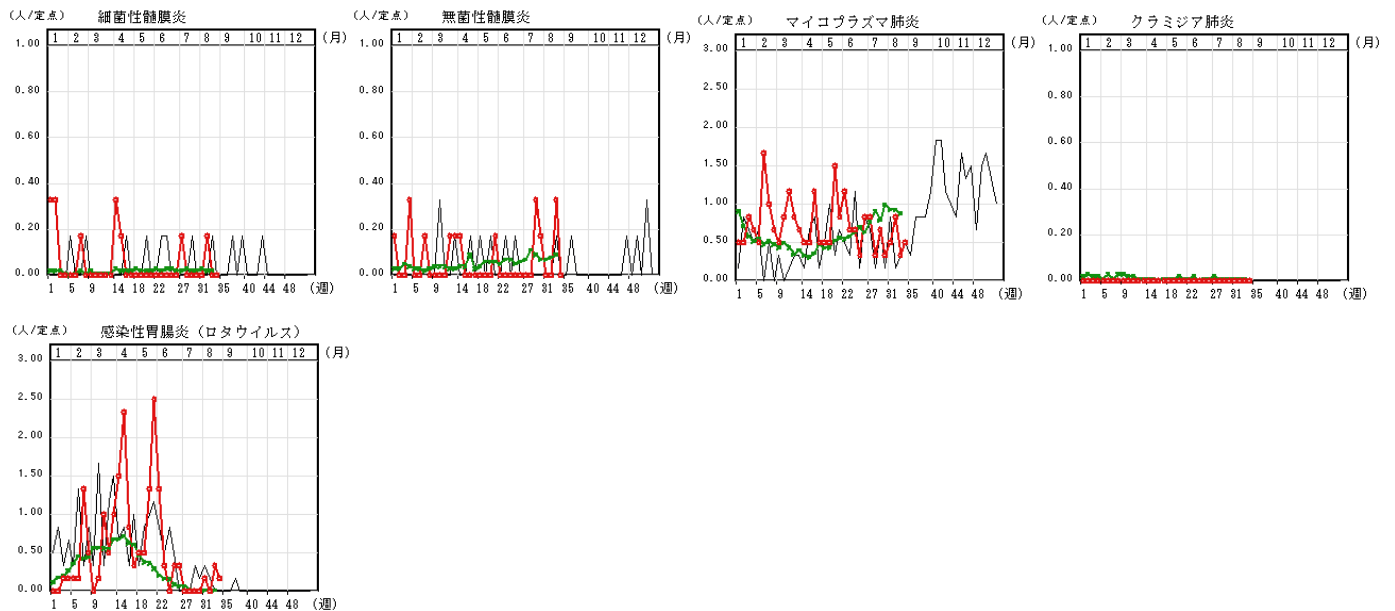
グラフの説明 ○—○は2016年青森県、——は2015年青森県、 ×—×は2016年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2016年第34週、但し全国は前週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2016年第34週、但し全国は前週)



## XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成28年第34週

報告はありませんでした。

平成28年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月				計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-21週	22-25週	26-30週	31週	32週	33週	34週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	3	1	2	2	0	0	0	0	0	0	8
	発症者数	0	84	13	45	30	0	0	0	0	0	0	172
児童・婦人関係施設等	件数	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
	発症者数	0	26	0	0	39	26	0	0	0	0	0	91
障害関係施設	件数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	発症者数	0	0	11	34	0	0	0	0	0	0	0	45
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	0	5	2	4	4	1	0	0	0	0	0	16
	発症者数	0	110	24	79	69	26	0	0	0	0	0	308